

## 令和3年度 第3回 北海道総合開発委員会計画部会 議事録

日時：令和3年8月2日（月）15:30～16:30

場所：Web会議（事務局：道庁別館 9階 第2研修室）

### 出席者

委員 山本部長、高橋副部長、小林委員、森崎委員 4名出席

北海道 上田計画局長、川村計画推進課長、金子計画推進課主幹 ほか

### （川村計画推進課長）

ただ今から、令和3年度第3回北海道総合開発委員会計画部会を開会いたします。本日の司会進行を務めます計画推進課長の川村です。よろしくお願ひいたします。

開会に当たりまして、総合政策部計画局長の上田からご挨拶申し上げます。

### （上田計画局長）

総合政策部計画局長の上田です。皆様には大変お忙しい中、ご出席いただきお礼申し上げます。

前回の開催から2か月が経過し、この間、パブリックコメントの実施、市町村への意見照会をさせていただきました。また、道議会でのご議論や資金委員長をはじめとして、計画部会委員以外の委員の方々にも、審議の途中経過をご報告し、ご意見を伺いました。

本日の資料にあります「事務局案」の取りまとめに当たりましては、皆様から頂戴したご意見についても可能な限り、反映に努めたところでございます。詳細につきましては、後ほど事務局から説明いたしますので、計画部会の検討も終盤に入りましたが、引き続き、委員の皆様には特段のお力添えを申し上げ、本日はよろしくお願ひいたします。

### （川村計画推進課長）

続きまして、部会成立要件の確認に先立ち、1件報告をさせていただきます。

去る6月11日付けで、武野伸二委員から、一身上の都合により、計画部会委員を退任する旨の申出がありましたので、ご報告いたします。なお、北海道総合開発委員会運営方針では、任期途中の部会委員の退任については、原則不補充という取扱いとなっておりますことから、資金委員長にご相談の上、そのように対応していますことを、あわせてご報告申し上げます。また、北海道観光振興機構の佐藤委員は、本日、都合により欠席とのご連絡を受けております。

本日の会議の出席状況についてですが、過半数を超えます4名が出席されておりますので、北海道総合開発委員会条例施行規則第4条第1項及び第5条第6項の規定により、部会が成立していることをご報告申し上げます。

本日の会議ですが、報道関係者を含め、公開での開催とさせていただいております。また、議事録につきましては、後日、道のホームページで発言者のお名前入りで公開させていただきます。本日の会議資料につきましては、事前にお送りさせていただいておりますので、適宜ご参照くださいようお願いいたします。

なお、途中で音声がかえなくなった等、通信環境にトラブルが生じた場合には、挙手してご発言いただくなど、その旨お知らせいただくようお願いいたします。また、トラブルの状況によっては、事務局の判断により、一時会議の進行を中断させていただく場合がありますので、あわせてご了承願ひます。それでは、ここからの進行は、山本部長にお願いいたします。山本部長、よろしくお願ひいたします。

## **(1) 市町村意見照会、パブリックコメントの実施結果について**

### **(山本計画部会長)**

それでは、議事を進めてまいりたいと思います。最初に部会の所要時間ですが、1時間程度、16時30分頃の閉会ということで進めてまいりたいと思いますので、ご協力よろしくお願いたします。

本日の審議事項ですが、次第にありますように、議題の「(1) 市町村意見照会、パブリックコメントの実施結果について」、議題の「(2) 北海道総合計画【2021 改訂版・案】について」でございます。

それでは最初に、議題「(1) 市町村意見照会、パブリックコメントの実施結果について」、事務局から説明をお願いいたします。

### **(金子計画推進課主幹)**

それではご説明申し上げます、資料1をご覧ください。

8月の欄にございますとおり、本日、「第3回計画部会」を開催させていただいております。6月の第2回計画部会から本日までの検討経過をご報告いたします。

第2回計画部会で提示した素案の内容のうち、IRに関する記述につきまして、委員の皆様の見解の相違がございました。そこで、部会終了後、山本部会長にご相談の上、修正案を作成し、委員の皆様個別に意見を伺ってまいりました。その結果、委員の皆様からは、1名を除き、修正案に賛成する旨のご回答をいただいたところでございます。その状況を、山本部会長にご報告・ご相談申し上げ、最終的に、修正案をもって、市町村意見聴取、パブリックコメントを実施することとしたところでございます。また、資金委員長をはじめ、計画部会員以外の委員の皆様にも、議論の経過とともに、素案の内容についてご報告させていただいております。

本日の第3回計画部会の後、9月1日の第4回計画部会において部会案を決定いただき、同日開催の総合開発委員会にご報告いただく形とさせていただきたいと考えております。総合開発委員会でご了承いただきましたら、庁内手続を経て、10月には「見直しの後の総合計画」として決定してまいりたいと考えております。

続きまして、資料2は、第2回計画部会でのご意見の概要をまとめたものでございます。説明は割愛させていただきます。

資料3-1が、先ほど申し上げた、市町村への意見照会の結果をまとめたものです。7つの市と町から、10の意見の提出がありました。

計画の根幹に関わる意見としましては、1ページの一番上、積丹町から、「コロナの収束が見通せない中、見直しのタイミングをもう少し遅らせるべきではないか」との趣旨のご意見をいただきました。道といたしましては、総合開発委員会でのご議論を踏まえて、このタイミングで見直すこととしたものですので、その旨、回答させていただいております。この他、記載の誤りなどについてのご指摘につきましては、計画に反映させていただいております。

市町村から寄せられた意見の内容と、道の考え方につきましては、本日までに、各市町村に回答済でございます。

資料3-2は、パブリックコメントで寄せられた意見と、それに対する道の考え方でございます。3人、2団体から延べ21件のご意見が寄せられております。

ご意見を踏まえて計画本文を修正したのにつきまして、この後、議題(2)で計画の内容をご説明する際にあわせてご説明いたします。ここでは、計画の基本的な考え方に関するもので、計画には反映しないものなどについて、ご紹介させていただきます。

1ページ目の最初の意見、「輝きつづける北海道は、地理的北海道のイメージが強い。道民があずましく暮らす大地、などに再検討すべき」というものです。

この度の総合計画の見直しに関する計画部会のご議論での共通認識といたしまして、総合計画のめざす姿「輝きつづける北海道」の有する意義は、新型コロナウイルスの感染拡大によっても失われるものではない、コロナによって輝きが失われるわけではない、こういう認識であると承

知しております。「将来にわたって安全で安心して心豊かに住み続けることができる活力ある地域社会の形成」という総合計画のめざす姿は、まさに、「道民があずましく暮らす大地」であると理解しております。

続きまして、5ページの下段から6ページの中段にかけて記載しておりますが、IRについてのご意見を3件いただいております。いずれも、IRに反対の立場からの意見です。

回答でございますが、この度の計画の見直しにおいて、「IRについては、新たなインバウンド等の取込方策の一つとして検討を進めると記載しています。」「今後の検討に当たっては、ご意見のような懸念の声があることにも留意してまいります。」このように回答しております。

パブリックコメントで寄せられた意見の内容と、道の考え方につきましては、本日、ホームページ等で公表しております。説明は以上でございます。

#### (山本計画部会長)

ありがとうございます。ただ今、事務局から「市町村意見照会、パブリックコメントの実施結果について」、説明があったところですが、これについてご意見・ご質問がある方はお願いいたします。

私からですけれども、パブリックコメント、資料3-2で随分たくさんの意見をいただきましたが、3人と2団体から、つまり5つの窓口からの意見が21件ということでしょうか。

#### (川村計画推進課長)

その解釈で結構でございます。

### **(2) 北海道総合計画【2021改訂版・案】について**

#### (山本計画部会長)

わかりました。他に何か質問ございますか。

それでは、次に、議題の「(2) 北海道総合計画【2021改訂版・案】について」、事務局から説明をお願いいたします。

#### (金子計画推進課主幹)

それではご説明いたします。6月にお示しした素案から修正したところを確認させていただきます。

4ページをご覧ください。一番下に、新しい指標として、「SDGsの達成に向けて取組を推進している自治体の割合」の指標を追加しています。

なお、記載の現状値と目標値につきましては、この場で修正させていただきたいと存じます。経緯といたしまして、指標の目標値については、他地域との比較の視点をもって設定することも検討すべきとの庁内議論がありましたことから、一度は、記載の内容で設定しようと考え、資料を送付させていただいたのですが、その後、全国順位による比較では、道の取組の効果(成果)がわかりにくくなるのではないかと。自治体数が20しかない県ですと、1つの自治体が取組を推進すれば5ポイント上昇しますが、北海道では5ポイント上昇させるためには、約10の自治体が取組を推進する必要があります。SDGsの裾野を広げる取組自体は着実に推進しているにも関わらず、全国順位という指標では、取組の効果が見えにくくなるのではないかと、このように考えました。

そこで、この部分につきましては、現状値は、道内で35%の自治体が取組を推進しているところ、「令和7年度までに50%をめざす」と修正させていただき、本日、お諮りしたいと思います。なお、50%という数字は、2020年度の調査では、全国9位に相当します。

続きまして、27ページをお開きください。前回の計画部会で、佐藤委員から、「世界的にも珍しい道内7空港の一括民間委託を切り口に、観光政策を語るべき」といった趣旨のご意見をいただいております。

ご指摘を踏まえ、将来像4「世界に広がる“憧れのくに”北海道ブランド」の「将来へつながる重要なポイント」として、「道内7空港の一括民間委託による運営」と記載いたしました。

34ページ、「重視すべき視点」として掲げた3つの視点のうち、「北海道の真価の発揮」につきまして、「世界的な人口増加により食料需給のひっ迫が懸念される中、我が国最大の食料供給地域として、食料自給率の向上に一層貢献していく」との記述を追加しております。

43ページ、パブリックコメントにおいて、「ヒグマとの共存」について意見を頂きましたことから、野生鳥獣の適正管理として、「エゾシカ、トド」とともに、ヒグマを例示いたします。

45ページ、ゼロカーボン北海道に向けた取組として、農業の脱炭素化、また、46ページに農地及び草地における炭素貯留に関する記述を追加しております。

また、指標「森林吸収量」につきまして、現状値が目標値よりも下がる理由がわかりにくいことから、注釈を追記しております。

48ページ、人権に関する記述につきまして、「道民一人一人が互いの個性や人格」に続けて、「多様性」との文言を加え、それらを尊重しながら、云々というように、記述を充実させております。

49ページ、高橋副会長のご意見を踏まえ、「要配慮者」との文言を加えた形で修文しております。また、50ページですが、業務継続体制（BCP）が整備されている市町村の割合を、新たな指標として加えました。

51ページ、災害時における「エネルギーの確保」に関する記述を追記しています。

53ページ、武野委員から、また、パブリックコメントにおいて、有機農業について追記すべきとの意見を頂きましたことなどから、「クリーン農業・有機農業などの環境保全型農業の取組の推進」などと記載いたしました。

59ページの下段、道内ものづくり企業の感染拡大防止製品市場などの市場への参入促進について追記しております。

64ページ、6月にお示しした素案では、外国人観光客の入込客数については、削除することとしておりましたが、指標としては設定することとし、目標値を設定することができる状況となり次第、設定することとしたいと考えております。

68ページ、ワーケーションに関する指標につきまして、道としてワーケーションを推進するという意気込みを示すよう、指標の内容や目標値の見直しを行っています。

71ページ、パブリックコメントにおいて、ジェンダー平等の目標として対策を明示すべきであるのご意見を頂きました。ご意見を踏まえ、「男女平等参画が進展していない状況が課題」であることを明記しました。

73ページ、武野委員から指摘もございましたが、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を踏まえ、記述を修正しております。

80ページ、物流対策についての記述を盛り込むべきとの小林委員のご意見を踏まえ、中段に「物流効率化の促進、交通・物流を担う人材の確保・育成」との記述を追加しております。

81ページ、武野委員から、また、パブリックコメントにおいて、ICTに不慣れな方への対策についてのご意見を頂きましたことから、上から3行目に「地域におけるICT学習機会の創出」と追記しました。

また、その下には、デジタルの専門人材の育成・確保についての記述を追記しておりますとともに、指標について、ICT部門の業務継続計画が策定されている市町村の割合、道内IT企業従業員数、この2つを追加しております。

97ページ以下、附属資料等を充実させております。97ページは、今回、新たに重点戦略計画として位置づけるSociety5.0推進計画・地球温暖化対策推進計画を含め、総合計画と重点戦略計画の関連を整理しております。

105ページからは、指標の一覧を掲載しております。114ページ以降は、用語解説のページです。高橋副会長のご意見を受け、充実に努めたところでございます。説明は以上です。

(山本計画部会長)

ありがとうございます。皆さんにご意見を伺う前に、私から一点申し上げさせていただきます。これまでの部会で、皆様からいろいろな意見が出されておりますが、そのうちの「総論的な」もの、例えば、「“メッセージ性”をしっかりと盛り込むべき」とか、「わかりやすい伝え方をやっていくべき」といった発言が出ていまして、対応案として、総合開発委員会委員長名義の「前文（前書き）」のページを設けて、そこに、われわれ部会としての思いを書き込んでもらおうか、というふうに考えております。

既に事務局から配付されていると思いますが、タイトルは「未来への“かけ橋”に寄せて」ということでございます。あくまで「たたき台」ということです。あくまでも私案という位置づけでございますが、こうした前文を総合計画に載せることでよろしいか、この是非についてご意見をいただければと思います。内容についても、併せてご意見いただければと思います。

順にご発言いただければと思いますので、小林委員よろしくお願いいたします。

#### （小林委員）

ありがとうございます。まず、前文の前に、前回までにいろいろお願いをしておりました点について反映していただき、改定案も質的に充実しておりますし、また、多岐にわたる作業だったと思います。事務局をはじめ関係部署の皆さんに感謝申し上げます。

続きまして、今、部会長からお話しがありました件についてですが、私も1点だけお願いしたいと思っておりましたが、それはこの計画を実施することによって、「北海道の将来がどうなるのか、どういった未来となるのか、あるいは目指すのか」といったメッセージが当然あったほうがいいのではないかとということでした。

計画案の第1章「総合計画の考え方」のところに「1 計画策定の趣旨」というのがあります。この趣旨の内容はこれでよろしいかと思えますけれども、ここに記載されている課題を解決して、北海道の価値を高めた暁には、道民にとってどのような明るい未来になっているのか、これをよりわかりやすく示すほうがよいのではないかと思っておりましたが、今回、山本部会長からすばらしい前文案をご提示いただきまして大変ありがとうございます。

すばらしい内容ではありますが、私から2点ほど、気が付いたことを申し上げたいと思います。1点目は北海道総合計画策定の背景として、北海道の課題である、全国よりも10年も早く進行している人口減少、少子高齢化があります。このままだと労働力不足の一層の深刻化、経済の大幅な縮小といった課題、懸念がありまして、それを克服するためには、産業全般で稼ぐ力を高めることが必須でありまして、特に北海道の強みである食と観光が牽引役として期待される場所です。そういった表現があって、それが前文5行目の「海外の食や観光の需要を取り込んで、地域の活性化につなげていく」という文章につながっていく表現としてはどうかというのが1点です。確かに新型コロナウイルス感染症の影響が極めて大きいということを認識しつつも、やはり元々北海道の課題も明記したほうがよいのではないかとということでございます。

それから、2点目はたたき台の後段あたりに、この計画が達成された暁には、道民にとってどのような明るい未来・社会になっているのか、これをわかりやすく示したほうがよいのではないかとことごとくでございます。具体的なイメージは難しいですが、例えば、37ページにあるとおり、「生活・安心」の面では、安心して子どもを生み育てることができる環境になっていきますとか、質の高い医療福祉サービスが整った社会になっていきますとか、あるいは経済・産業の面では、新たな産業も含めて、各産業が持続的に発展していて、安定的に雇用が確保されていますといったところが、ヒントになるのかなと思っております。以上でございます。

#### （山本委員）

ありがとうございます。2点、ご意見いただきました。後ほどまた検討させていただきます。続いて高橋委員、お願いいたします。

#### （高橋副部長）

高橋でございます。今、小林委員もおっしゃられましたとおり、パブリックコメントや市町村

への聞き取りを行いながら、大変膨大な量をまとめていただき、感謝申し上げます。

また、用語に関しても、例えば「ワーケーション」など、なかなか定義しづらい用語も含めて、記述していただきましたので、用語に対する理解というのはかなり進むのではないかなと思えました。

内容に関しては、今まで出された意見がしっかりまとまっているので、特に大きな問題はないかと思っております。細かいところですが、例えば、インフラ関係で、79ページの「交通基盤の現状」では、最近の高速道路の話題として、足寄と陸別の間の事業復活というところもありますが、これは4月1日現在の話ですので、このままでよろしいのかなというふうに思っております。記述については、特に問題はないと思っております。

それで、前文のたたき台について、小林委員と、かなり重複する部分がありますが、意見を述べさせていただきたいと思えますけれども、全体としては、「計画の趣旨」で、3ページ目でわかりやすく書いていただいているので、大変素晴らしいと思えますが、まず1つは、今回の見直しは、コロナの関係で、もしかするとこれまでの見直しではない形の見直しをしなければいけないという形だったのですが、まずは、人口減少や少子高齢化の話は、しっかり書いておいた方がよろしいのかなと私も思います。それに付け加えて、このようなコロナの時代だというふうなこともありますので、新たな課題が降りかかってきたという位置づけで今まで以上にしっかり見直さなければいけませんねというような論調の方がよろしいのかなと思ったのが1点です。

特に、私も「稼げる」という言葉を使うかどうかは別として、「輝きつづける」というのは、それこそ恒星と惑星じゃないですけども、恒星であれば中から燃やすものがあるって、それで輝きつづけると、惑星が光っているのは、確かに明るいですけれども、月もそうですが、相手から光らされていたって光っていると、その当たり、ちょっと違うのだらうと思えますので、しっかり自分たちの中で燃やすものをちゃんと作って、雇用もして、その中で産業も、というようなところも含めて、イメージ的に書かれた方が良いのかなというのが1点です。

2点目、これも小林委員と全く同じで、「明るい未来」、これは確かに重要な言葉ですけども、具体性がなくて以前、山本先生もバックキャストिंगの考え方でこの計画をもう一度見直しましょうというお話を以前いただいたような気がします。バックキャストिंगというのは、これが実現したら、どのような世界になっているのか、地域になっているのかというところを少しでも書かないと、なかなか明るい未来に行きましょうねというところだけだと、なかなか掲げた旗がどういうところに行くのかなという感じもします。小林委員がおっしゃるとおり、まさに37ページのところで、いくつかの用語を用いながら記述するというのがよろしいのかなと思えます。

「3本の柱で補強して激流に負けず」という表現は、私は大変よろしいのではないかなと思えましたので、ここは良いと思えました。

もう1点、一番最後の「輝きつづける北海道」で「一步一步、着実に“かけ橋”を歩んでいきましょう」のトーンが、せっかくここまで書いておいて、「皆さん着実にいきましょうね」となると、ちょっとどうかと思まして、例えば、この計画の中で一つの大きな流れとしては「きょうどう」という言葉があると思うのですが、ですから「ともに」とかですね、「みんな一緒に」とかですね、そういう言葉でこの課題に対して「かけ橋」を自ら作りながらというか、補強しながらというか、その新しい橋を皆さんとともに歩いていこうというような形のイメージがよろしいのかなというふうに思いました。「きょうどう」の「きょう」というのは「とも」の「共」と「協力」の「協」といろいろあるのですけれども、やはり「きょうどう」の「きょう」という字をですね、どこかに、はめていくと、これからの総合計画の行き着く先みたいところが共有できるのかなというふうに思った次第でございます。

最後に、今回、総合計画を見直すということで、前回の部会と今回の部会の間に、私にて国の委員会（国土審議会北海道開発分科会第9回計画推進部会）にも参加させていただき、国、北海道開発局としても、第8期北海道総合開発計画の見直しをやっていくとのことで、そういう中で、食と観光とエネルギーというところもキーワードとして出てきたので、エネルギーというキーワードをどこまでしっかり書き込んでいくのかというのは、今からではちょっと難しいと思えます

ので、それは置いておいても、国との役割分担みたいなのところも含めて、考えておく必要があるのかと。これは、あくまでもコメントなので、この計画をどうしていくという話ではありません。そういうものも含めて、今後を見据えながら、国の動きが意外に速いので、その速さの中でどういふうに北海道の総合計画を進めていくのかということが考えどころかなというふうにちょっと感想として思った次第です。以上です。

#### (山本委員)

ありがとうございます。本質的なところでご指摘いただいた気がします。そのあたり、後ほど私もお話しさせていただきたいと思います。続いて、森崎委員お願いいたします。

#### (森崎委員)

全体的な修正の部分では、パブリックコメントの返答の8ページの最後、「地域の可能性を広げるデジタル・トランスフォーメーションの推進というところに対して、高齢者には、大変な時代になった。アクティブシニアと呼ばれ、「私はデジタルに詳しい」と思う人ほど、ネット型の悪質商法にだまされる。」というのがあります。

それに対して、「ご意見の趣旨を踏まえ、「地域における ICT 学習機会を創出する」の文章を追記いたします」というところを比較して見ていたのですが、先ほど事務局から説明のあった部分のことかと思って見たのですが、要は、「誰も取り残さない」という文言がかかっている文章で、最近、事業で高齢の方、60歳以上の方たちと関わる事があって、思っている以上に IT 系には近くないというか、誰も取り残さないというものの中に高齢者が入ってこないような感覚をもっているような気がします。

総合計画の中では、多様性とかそういう流れの「誰も取り残さない」であり、高齢者のように最初から例えばパソコンのスイッチの場所はここですよという段階の人に対しては、もう取り残さないというところの段階まで入っていないんじゃないかなという、そこがちょっと懸念の残るところだなと思いました。もう少し、拾い上げるような対策はできないかなというふうに感じたところでした。

それと、話のありました前文に関してですが、私の読み方としてはすごくファンタジックな感じに入ってきて、最初に何回もお話させていただいているのですが、この総合計画っていうものに入っていく時に、堅いものというか、あまりこういう本とか資料のようなものを読んだことがないという人にとっても入り込みやすいものとしてはすごく映像になってみえるような感じがしました。「かけ橋」ですとか「輝き続ける」というのが絵となって見えてきて、その後、3ページ目に、計画策定の趣旨というところに具体的な文言が出てくれば、その方が入っていきやすいのかなというふうに感じました。

ただ、今までの先生たちのお話を聞いていると、まさにその通りだなと感じましたが、ただあまり最初から具体的な計画とか方策というのをを出していくと、その後に入っていくのが、何かやっぱり面倒くさそうかなというふうになると、せっかく取り込んで中に入ってみようかなという人まで取りこぼしてしまいそうかなという気がするので、最初は「ほあん」とした中からどんどん興味を示していくというような作りもありなのかなというふうには、感動して先生の前文を読ませていただきました。以上です。

#### (山本計画部会長)

ありがとうございます。私からも、皆さんのご意見と絡めて説明したいのですが、この文案そのものは、私と事務局で相談して作らせていただいたもので、文責は私にあります。

一つは、実はこの会議が始まったときには、今でもそうですけれども、最大の話題が「コロナ禍」なんですよね。ともすると本文の中に「コロナ禍」という文言があちこちに入ってきたり時期なんです。ところが、最初の議論で、「大方針は、われわれは変わってないんだ」というのがあって、コロナ禍に対する総合開発委員会としての対応がどうなるのか、ということが一つまたあるんですね。それをもし書くとすると、われわれがコロナ禍でまじめに取り組むとすると、

書けるのであればこういうところなのかなというのが一つありますね。

もうひとつ、これは私の不徳の致すところですが、やはり小林委員、高橋委員がおっしゃるとおり、「未来を具体的に描く」のは、これは予想問題のようになるので難しいけれども、「こうなりたい」という文句は書くべきだと思うんです。仮に、どこまで具体的に書けるかはわからないけれども、わからないから未来で、ただ、やはりそのイメージを伝える必要はあると思います。今、改めて皆さんのご意見をお聞きしてハッと思ったことがひとつあります。

「激流にひるむことなく、一步一步、着実にかけ橋を歩む」という表現。高橋委員もおっしゃいましたが、これ、前提が「かけ橋がある」になっています。かけ橋は普通かけるものだと思うんですよ。「かけること」がやっぱり重要だなと。かけ橋が必要だなというのはわれわれ全体の共通認識で、その「かける先を描く」という共通認識もある。やっぱりメッセージ性ということからいうと、道民みんなで知恵を出し合って、それを「つくる」という形にした方がいいかなと思います。それがひとつの私のリライト案。

あともう一つ。これも高橋委員からいい話をいただきましたが、「惑星・恒星理論」というのがすごく大事だと思います。小林委員からの経済が燃料だということも全くそのとおりで、燃料がなくて輝き続けられるわけではない。それをわかりやすく伝える、燃料の確保、強靱性とか持続可能性っていうのもひとつの形なんですね。われわれが「自ら輝く」ということをもう少し強調した方がいいのかなと思っています。「メッセージを出しましょう」ということが趣旨なので、妥協はしない方がいいのかなと思います。

私からの二点、「自ら輝く」というメッセージ性、「未来に対するかけ橋をつくる」というメッセージ性、それから全体の中ではちょっと書きにくいコロナ禍に対してわれわれは真摯に未来を見ながらまじめに取り組むのだというメッセージ、この三点を踏まえて、もう少し加筆・修正して総合開発委員会の方に打診してはどうなかなと思います。私はそのような意見です。よろしいでしょうか。この部分については、以上で終わりたいと思います。

続いて、こういった皆さまの議論を踏まえて、更にご意見ある方はいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### (山本計画部会長)

実は、「デジタル・トランスフォーメーション」という用語があって、この中にもあちこち出てきていますが、先ほど森崎委員から出てきた話の中で、「だれ一人取り残さない」という言葉に対する対応が、私も似た意見を持っていて、というのは、例えば取り残さないんだから学習機会を与える形、これはある意味で自己責任論に近い。自分で勉強する、機会はあるんだからやりなさい。もうひとつの考え方がありまして、私は情報側ですが、情報側が近づくという形。私自身が自分で考える「だれ一人取り残さない」イメージは、情報側が近づくイメージ。

例えば、自動車は80歳の方でも乗れるように作ってありますよねという話なんですよ。これからの社会でデジタルインフラ・デジタルシステムが社会の根幹になるとすると、それを使うために勉強しなさいというのは行政側、責任を持って進める側にはちょっとまずいのではないかな。

やはり最低限の生活に必要なミニマムな情報システムというのは単なるバリアフリーの域を超えて、リテラシーがなくても使えるようなところを目指すぐらいの感じがあるべきだろうと私は思っています。そういう話を最近している。ともするとこれは二つの意味があり、勝ち残るため、言い方は悪いかもしれませんが、道経連さんのように経済・産業側にはこれは競争のツールになる。デジタルトランスフォーメーションは産業を強化する、われわれが力強くなるためのツール。これもなければいけないが、同時にもうひとつ、「誰でも」という部分は、逆に言うと、人間の力をつけるだけではだめだと思うんです。システム側がより万人が受け入れられるような、あるいは常識的なものにならないといけない。そういうふうには考えておりますので、もし表現を書き替える機会があれば、そういうところも入れていきたいと思う。

ほか、いかがでしょうか。何かございますか。よろしいでしょうか。進行上、前文の話が入ったので総括がぼけた気もするのですが、今回、事務局で修正いただいた改訂の案ですが、これにつ

いて広く全般に通して何かあれば最後にいただいて次に進みたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。大体出尽くしましたかね。ありがとうございます。

それでは、本日皆さまからいただいたご意見、これにつきましても、私と事務局で改めて確認・検討し、次回の計画部会でお示しする、最終案ですね、「北海道総合計画【2021改訂版】」、これに反映させていきたいと思っております。詳細につきましては、私に一任させていただくということで進めたいと思っておりますが、これについていかがでございましょうか。

(異議なし)

### **(3) その他**

(山本部長)

ありがとうございます。それでは、慎重に内容等を検討して、事務局とともに改訂を進めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題の「(3) その他」について、事務局から何かございますでしょうか。

(川村計画推進課長)

次回の計画部会についてですが、9月1日13時00分からの開催を予定してございます。その後、引き続き、14時30分から北海道総合開発委員会を開催する予定でございます。詳細につきましては、改めて御連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

(山本計画部会長)

ありがとうございました。ただ今の事務局の説明、これについてご質問等ございますか。よろしいですか。それでは以上をもちまして、本日予定していた議事は全て終了することになります。会議の円滑な進行にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願い致します。

(川村計画推進課長)

山本部長をはじめ、委員の皆さま、長時間にわたり御議論いただきまして、誠にありがとうございました。本日いただきました前文を中心としたご意見などにつきましては、改めて事務局の方で案の方を作成し、部会長と相談させていただき、最終案を準備したいと思っております。

それでは、以上をもちまして、令和3年度第3回北海道総合開発委員会計画部会を閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。

(了)